

着付けのデジタルアーカイブ

目的 日本の昔から続く伝統的な着物だが、今、着付けをする人また、着付けをされる人が減ってきている。それは着物を着るきかいが減っているのも要因の1つだろう。しかし海外の方には人気が高く、世界に誇れる着物の文化をなくしてはいけないと思い。現代の人にも着付をできるようになってもらうためにデジタルアーカイブした。

特徴 デジタルアーカイブしたデータは、着付けの説明とともに動画を見ることができるよう電子書籍にまとめた。動画は多方向撮影をし、どのように着付けをしているか、角度別でも見ることができるよう撮影した。

工夫点

- ・多方向から撮影することにより正面からでは見えない着付けの位置も見えるようにした。
- ・工程ごとに「着物を肩にかけるところから腰紐を結ぶまで」「しわの整理から伊達じめをつけるまで」「帯板を入れるところから仮紐でしめるまで」「まくらをつけるところから帯上げを本結ぶするまで」の4分割に区切り、一連の流れを分かりやすくした。
- ・各章にクイズを作り、楽しめるようにした。

例:浴衣は昭和30~40年代、庶民の暮らしの中で何として着用していたでしょう。

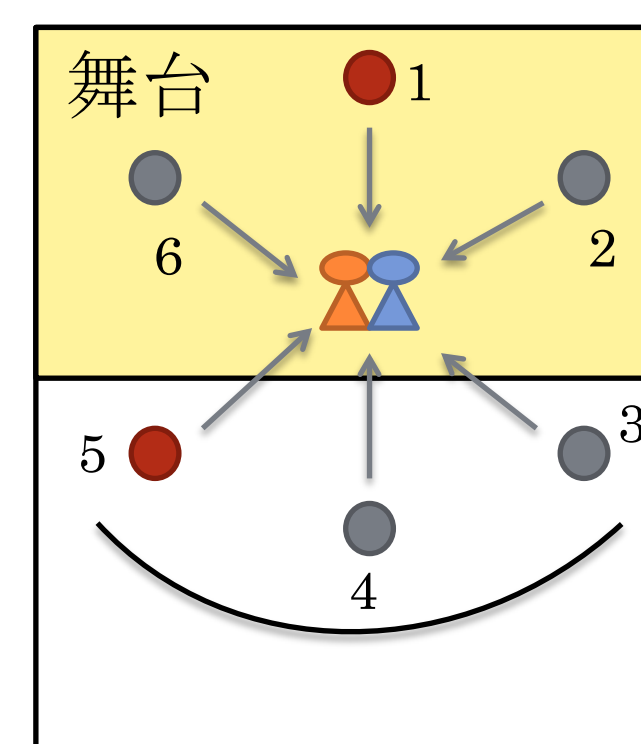
準備した撮影機材

4Kカメラ2台 デジタルビデオ4台を用いて今回は撮影した。

動画撮影の位置

()内の数字はカメラ位置を表す。

- ・対象者を正面からの撮影が必要なため正面。(4)
 - ・帯の結び方が見えるようにするため真後ろ。(1)
 - ・人がかぶらないようにするため斜め後ろ。(2.6)
 - ・同じく人がかぶらないようにするため斜め前。(3.5)
 - ・左前と真後ろは4Kで撮影。(1・5)
 - ・机や椅子が見えないように白いパネルを配置した。
- の6方向から撮影。



● ...は4Kカメラ



カメラを設定する

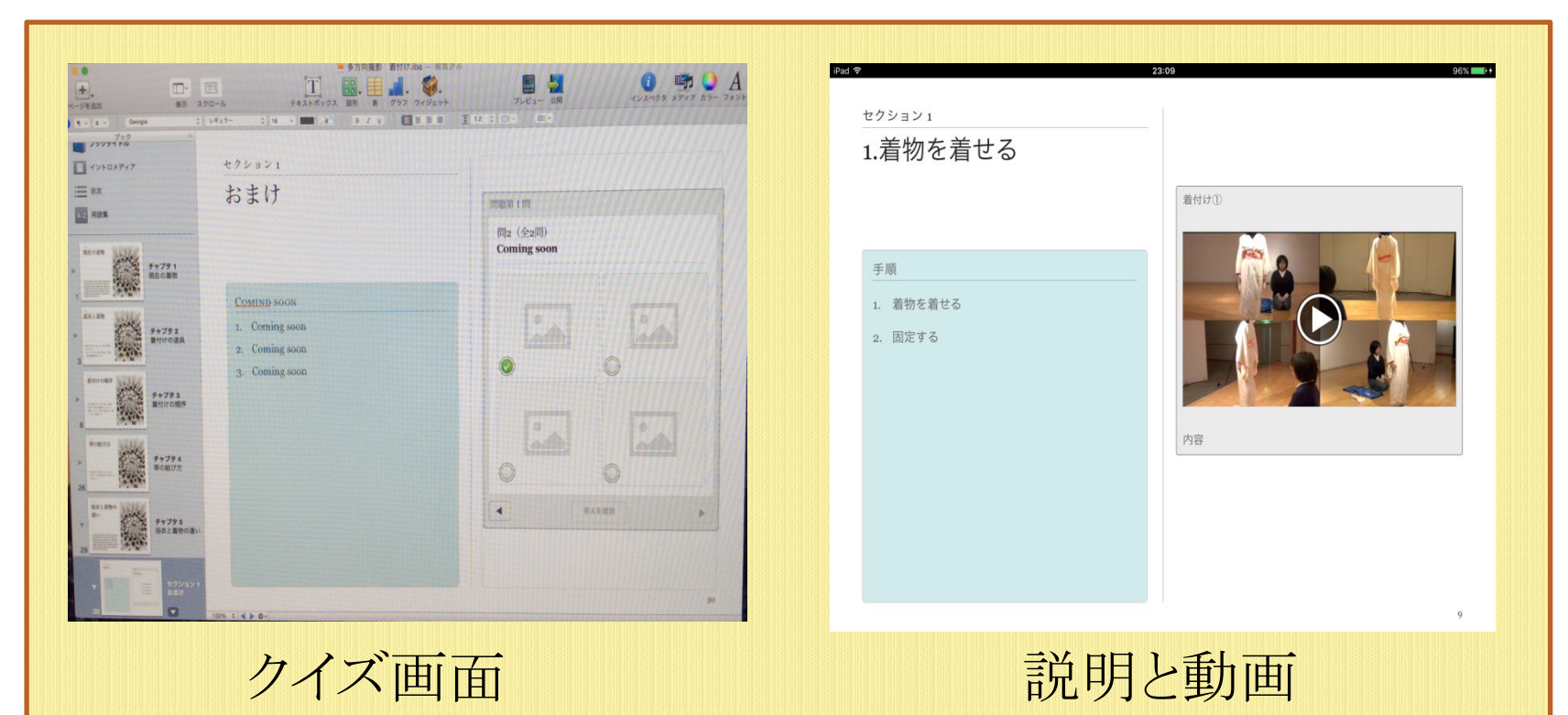


三脚をたてる

電子書籍の作成

目次

- 第1章 着物の歴史
- 第2章 着付けの道具
- 第3章 着付けの順番
- 第4章 帯結びの種類
- 第5章 浴衣と着物の違い



クイズ画面

説明と動画

作成を終えて大切であると思ったこと。

- ・撮影は編集時を考え、工程ごとにコンパクトに区切る。
- ・カメラの設定をあらかじめ統一させる。
- ・被写体との距離を統一させる。
- ・動画の撮影の開始と終了に合図をだす。
- ・動きを考え、カメラを設置する。
- ・全てのカメラから均等に見えるように光を調節する。

改善点

- ・着物の種類別の写真を入れる。
- ・帯の種類別に写真をいれる。
- ・帯の結び方を種類別に動画を作り載せる。
- ・自分で着付けをする方法の動画も載せる。
- ・帯の結び方の動画をアップで撮影する。



多方向撮影